

令和6年度 学校経営計画・学校評価				☑4月4日提出	☑10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	29	高知海洋	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念		(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	本県唯一の水産・海洋系高等学校として、高知県の漁業振興の核となり、海を教材とした実践的・体験的な学習を通した教育活動により、各現場における即戦力となる次代の水産・海洋産業を担う人材を育成する学校				学校関係者評価				
スクール・ポリシー		【アドミッション・ポリシー】(入学受入れ方針) ○海、船、魚に興味があり、水産・海洋人として努力しようとする生徒 ○将来、漁業や海洋産業、水産食品のスペシャリストをめざして取り組もうとする生徒 ○水産・海洋系大学等への進学のために学習を深めたいと考えている生徒 ○人への思いやりやみんなど協力して取り組もうとする生徒 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) 海洋高校ならではの恵まれた施設や環境を活用し、知識・技術習得の教育実践を通して、豊かな人間性を育て、生徒自らが社会に貢献したいと思うような人材を育成します	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○確かな学力と海洋産業担い手としての力を身につけます ○資格取得を推進し、技術を磨き目標に向かって挑戦する生徒を育成します ○実践的・体験的な学習を通して規律ある生活の励行と整理整頓する力を身につけます ○実習等、集団学習の中で、自他を認め協力して行動できる生徒を育成します	【学力の向上】 評価 【 A 】 ○「すらら」においては、目標を上回り成果があった。また、専門教科を学ぶ機会が多く、生徒一人当たりの資格取得数が7.19個と大きな成果が出ている ○地域や企業の連携を含め地域連携を積極的に取り入れており、県内外の研究発表会や地場産大賞次世代賞の受賞など将来を見通した学びにつながっている 【社会性の育成】 評価 【 A 】 ○家庭との連絡を密にし、遅刻平均が前年度を下回り一定の成果があった ○地域や企業と連携し地域課題を研究し発表会で自分たちの考えを、発表できていた ○進路決定率については、11年連続進路決定率100%が継続されていることは素晴らしいことであり、尚且つ進路先の専門率が87%と非常に高いことが評価できる 【チーム学校】 評価 【 A 】 ○専門分野への進路決定率が87%と非常に高く、チーム海洋として取り組んでいる成果である ○高校説明会や体験航海等においては定員オーバーとなり、船舶職員養成課程志願者が1.1倍と一定の成果がある ○先生が不祥事を起こしたら学校は混乱するが、海洋高校においては不祥事防止委員会や校内研修等を十分に組みこんでおり信頼できる学校づくりが行われている								
(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分												
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】		見直しのポイント【A】		
重点項目	学力的向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける	○C層以上の生徒の増加 ・1年:基礎学力テスト2回目は、1回目より2ポイントあげる ・放課後支援講座への出席率90% ・2年:前回より3ポイントあげる ○授業外学習時間の増加 ・専門力を向上させ、専門関連企業への就職率:R5(80%)→R6(81%) ○将来のために勉強頑張っている生徒の増加 R5(86.3%)→R6(88%) ○卒業までに取得する資格・褒賞5以上	○放課後支援講座等でICT教材「すらら」等の有効活用 ○土佐海援丸を有効活用し、身につけさせたい力を明確化 ○実習ノートを活用し、「オリエンテーション」「内容改善」「評価」「振り返り」を実施 ○資格取得に向けた補習の実施	B	○放課後支援講座への出席率73%すららやITを活用し、目標達成に向けて取り組んだ ○7月成績不振者15.1%(R5:14.0) ○将来のために勉強を頑張っている生徒86%(R5:86%) ○9月末現在3年生154資格、平均5.0	○学習支援員事業の活用「すらら」等を活用し、基礎学力の定着を図る ○授業改善の推進 生徒在校時はTABを所持させICTの活用を推進する ○資格 授業や個別指導の充実を図る	A	○放課後支援講座への出席率:93.8%TABの持ち帰りやICTの活用などによりC層以上は1年で約19ポイント上昇。2年で約7ポイント上昇し学力向上に成果があった ○3年生は延べ223個の資格取得、1人平均7.19 ○放課後ドリル等授業外学習時間の増加、専門関連企業への就職率が87%となり一定の成果があった ○将来のために勉強を頑張っている生徒84.3%で目標値88%に届かなかった	○学習支援 ・授業外時間の活用 ・タブレットの活用 ・放課後補習参加の啓発 ○授業改善 ・ICTの活用 ・教員の意識改善		
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○遅刻平均を前年度以下にする ・上限目標(R6:1年6.0、2年6.5、3年7.6) ○進路保障 進路決定 100% ○将来の夢や目標を持っている生徒の割合 R5(82%)→R6(85%)	○保護者との連携 ○HRの活用 ○参加・体験型学習の実施 ○インターンシップ ○企業との連携事業	B	○遅刻者には家庭連絡を徹底した1学期末(1年0.7、2年3.1、3年1.3) R5:(1年1.1、2年3.6、3年1.6) ○志願先決定状況100%、専100% ○将来の夢や目標を持っている(83%)	○家庭との連携を継続 ○事前見学や面接指導を実施し、全員の進路決定をめざす ○キャリア教育を計画的にすすめる	B	○家庭連絡等を密にし、2学期末現在の遅刻平均は(1年2.4、2年6.9、3年5.6)でおおむね目標は達成できた ○インターンシップや企業との連携事業の成果もあり進路決定率11年連続100%達成、専攻科も、進路決定率100%達成 ○将来の夢や目標を持っている生徒が(72.5%)若干減少した	○TPO教育の推進 ・挨拶や礼儀等の励行 ・欠席・遅刻をしない ○保護者等との連携 ・生徒の現状を常に確認 ○キャリア教育の推進 ・学びを通じて、実現したい将来像や実現するまでの過程を明確にする力を養う		
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○地域清掃活動を年間3回以上実施 ○課題研究では、必ず地域連携活動を実施 ○教員の指導力向上に向けた研修会を実施 ○本校の魅力を伝えるために地域連携を含め、情報発信を学期に2回以上実施 ○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。R5(65.8%)→R6(70%)	○学校行事として、学期に1回地域清掃活動を計画 ○釣り大会等、行政と連携して開始前に環境美化活動を実施 ○課題研究では、地域課題、地域連携活動を取り入れた研究を実施 ○産研水産部会や四国地区水産教育研究会等の研修会に参加し教員の知識と技術力、指導力を向上 ○イベントは積極的に参加 ○外部講師活用事業等を実施して、生徒だけでなく教員も最新技術を習得する	A	○清掃活動2回(6月河川敷、7月学校周辺) ○課題研究で地域連携を推進中(7/9チームが地域連携を実施) ○5月校内研として3テーマの実践報告 ○HPに生徒の活動を随時掲載中 ○ツナガール等、地域行事に積極的に参加 ○地域貢献に肯定的な考え74%(4月)	○清掃活動の計画的実施 ○課研発表会の外部公開 ○ツナガール、ベンチ、海洋生物等のツールを利用して協働活動を積極的に推進 ○外部講師、インターンシップ等を計画的に実施	B	○地域貢献に肯定的な考えが69.2%ではほぼ達成できた ○校内研修や教育センター研修等の研修に教員が参加することにより教員の資質や技術力等が向上した ○ツナガールをはじめとする生徒の活動をHPに随時掲載、各方面から要請があり地域連携が定着化してきた ○課題研究で地域連携を実施し、地域や関連企業を招き研究発表を実施し高評価を得た ○課題研究では、7/9チームが地域と連携した研究活動に取り組んだ	○学校行事の充実 ・地域連携活動の励行 ・定期的に本校の魅力と取り組み等を情報発信 ○体験活動の推進 ・教員の知識技術力の向上 ・生徒が地域活動等へ参画し、資質・能力の育成		
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○意見体験発表会は年2回実施し、各HRから1名以上を選出 ○課題解決型学習発表の場を年1回設定	○意見体験発表会は体験型発表とし、将来の進路を見据えた内容を踏まえる ○課題研究では、情報機器を活用し言語能力や実社会での課題解決能力を育成する	B	○5月体験発表で各HR1名発表代表1名が四国大会に出場した ○課研は研究活動を継続中	○10月に体験発表会を実施する ○課研発表会はコース発表、校内発表、四国発表と段階を踏んで取り組む ○水産学会ポスター発表に参加	A	○5月と10月に意見体験発表会を実施し、自己の進路を見据えた発表が行え、言語能力の育成につながった ○課題研究では、地域の課題解決に取り組む中で、データーの活用力や各種発表会での表現力などを身に付けることができた ・四国地区大会で奨励賞を受賞、その他場産次世代発表や水産学会ポスター発表、産業教育生徒研究発表会等に出場して、高い評価を得た	○生きる力の育成 ・TPOを意識した行動の定着 ・基本的生活習慣の確立 ・資格取得の奨励 ○キャリア教育の推進 ・キャリアデザイン能力の育成 ・専門知識・技能の向上		
		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】		見直しのポイント【A】		
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○生徒数の確保 ○学校PRの促進 ○地域連携活動の充実 ○土佐海援丸の有効活用	生徒の発表や体験活動の機会を増やす ○生徒数120名以上とするためA日程出願40名以上 ○学校運営協議会を年間3回開催 ○水産・海洋関連への進路85%以上 ○ホームページ閲覧回数 20,000回以上/年	○生徒体験・研究発表会への関係者の招致 ○地域・企業との連携・共同開発 ○小中学生向けの体験航海を実施 ○中学校への積極的な学校PR活動	B	○体験入学50名参加(R5:48名) ○8月に県内外の中学校訪問を実施 ○学校運営協議会を6月に実施(経営計画を確認) ○中学生の学校見学等、積極的に対応する ○HP閲覧数6000回以上(R5を上回る)	○11月に中学生体験航海を2日実施 ○海洋祭、魚河岸かいよう等、学校行事を広く公開 ○中学生の学校見学等、積極的に対応する ○HPを積極的に活用する	B	○高校説明会等で積極的なPRを実施し、中学生体験航海では定員オーバーになるほどの成果があった ○A日程願書配布80枚を超えた(昨年度76) A日程出願は現在のところ26名で目標に届かなかったが、船舶職員養成課程は1.1倍と増加した ○意見体験発表や生徒研究発表会に関係者を招き、高評価を得た 学校運営協議会も年3回開催見通しである ○本年度卒業生の進路先で水産・海洋関連へ87%達成 ○ホームページ閲覧回数 2月28日時点41,112回	○生徒数の確保 ・学校PRの促進 ○地域連携活動の充実 ・地域と課題を共有して地域貢献の推進 ○土佐海援丸の有効活用 ・多目的航海の充実 ・生徒の自立・協働力等の育成		
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 不注意事案発生の防止 ○校内研修の実施回数(学期に1回実施) ○不祥事防止委員会の実施回数(学期に1回実施) ○ハラスメント発生件数:0件	○服務規律の徹底 ○研修会の実施 ○教職員間の積極的なコミュニケーションにより風通しの良い職場環境に努める ○報連相の徹底	B	○不祥事防止についての啓発4回・研修2回(8月末) ○船員への啓発(人事面談時に個別に実施)	○服務規律については機会あるごとに意識の向上を図る ○管理職が実習船への乗船する機会を増やし、対話の機会をつくる	B	○不祥事防止のための校内研修会を14回(R7.2.18現在)実施し、風通しの良い職場づくりを目指した(不祥事は0) ○不祥事防止委員会は月2回実施し、不祥事防止徹底に取り組む不祥事は0である ○教育公務員としての服務規律や報連相の徹底を心掛け、ハラスメント発生件数も0である	○服務規律の徹底 ・不祥事防止委員会や研修会の実施 ・風通しの良い職場環境の構築 ○報連相の徹底 ・自分事として考える組織の育成		
	働き方改革	★長時間勤務の解消 生徒に対して効果的な教育活動を行うために教員が日々の生活の質や教職人生を豊かにする	○時間外45時間超の教職員:R5(1)→R6(0) ○年休の取得推進(年10日以上)	○週1回残業0日を設定する ○部活動の休養日を週2日設ける ○行事や会議等、業務の見直し・改善 ○面談やアンケートの実施 ○報連相の徹底	B	○時間外45時間以上:0(8月末現在) ○毎水曜日を「ノー残業デー」として、職朝および退勤時間に呼びかけ ○年休取得平均8.3日	○服務規律については機会あるごとに呼びかけ、意識の向上を図る ○ノー残業デーの取り組みを継続 ○「チーム海洋」として一部の教職員に負担が片寄らないように仕掛けをしていく	A	○時間外45時間超の教職員0で目標達成 ・部活動の週休日やノー残業デーの設定をした ・教員間のコミュニケーションをはかり、「チーム海洋」として取り組んだ ○年休の取得推進(年10日以上)は、一人平均13.4日である(R7.2月末現在)	○時間外45時間0推進。 ・部活動の週休日やノー残業デーの設定 ○業務の負担度チェック ・業務分担に偏りが生じることのないよう、管理職によるマネジメントを慎重に実施		